

地域の活力に関する関連データの推移

～人口・所得・地価～

令和 6 年 7 月

地域の活力に関する関連データの推移 目次

帯広市の人口

① 総人口	1
② 道内主要都市比較	2
③ 自然増減	3
④ 25～39歳の若年人口推移	4
⑤ 合計特殊出生率	5
(参考) 諸外国における出生率の推移	6
⑥ 社会増減	7
⑦ (男性)年齢階級別・転出入状況<経年比較>	8
⑧ (女性)年齢階級別・転出入状況<経年比較>	9
⑨ 人口移動図	10
(参考) 十勝の人口増減率	11
⑩ 外国人数	12

帯広市の所得

① 総所得金額(個人市民税)	13
② 一人当たりの所得金額(個人市民税)	14

帯広市の地価

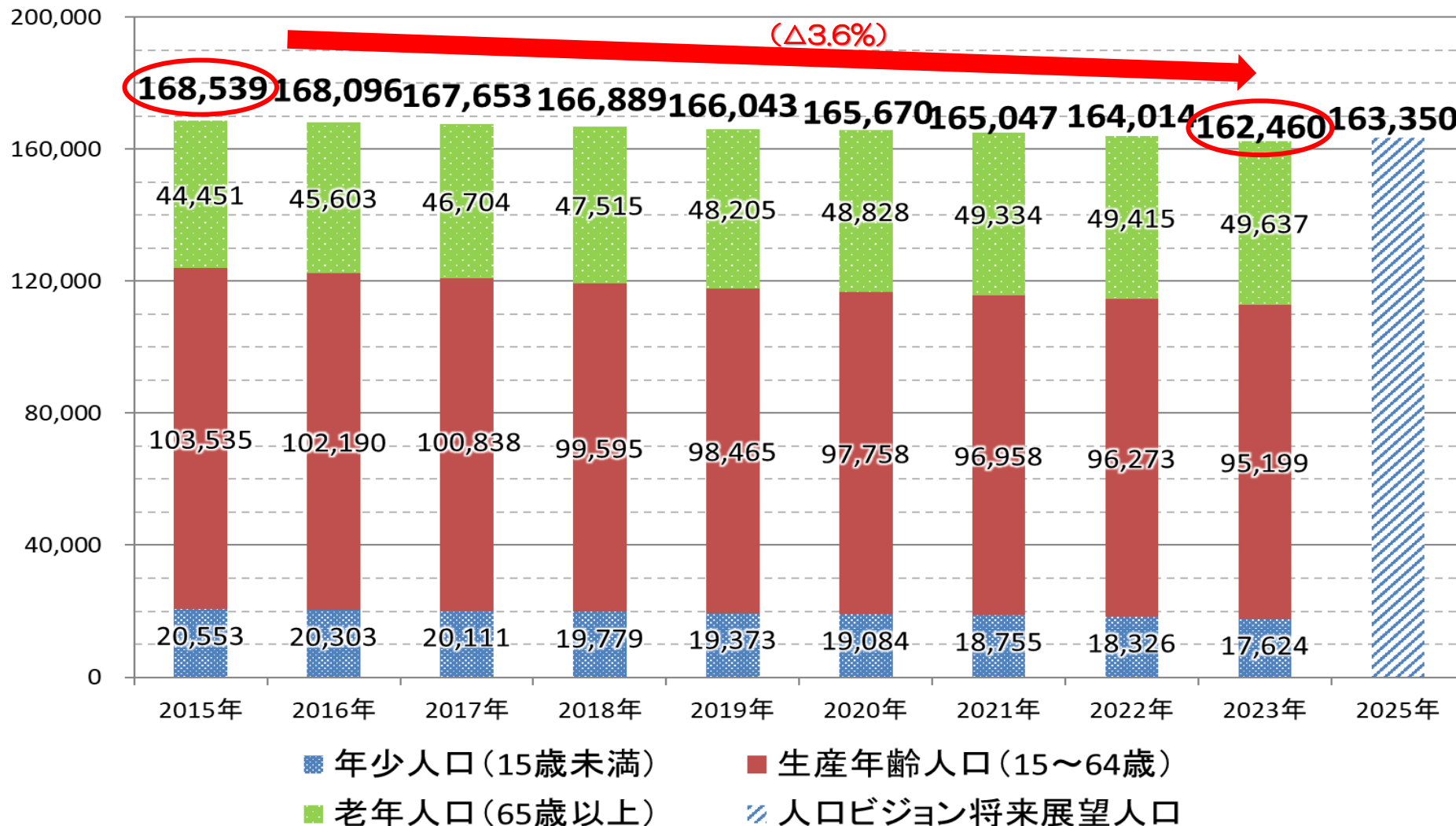
① 宅地	15
② 商業地	16

帯広市の人口

①総人口

● 2015(H27)年～2023(R5)年の間で6,079人減(△3.6%)

(単位:人)

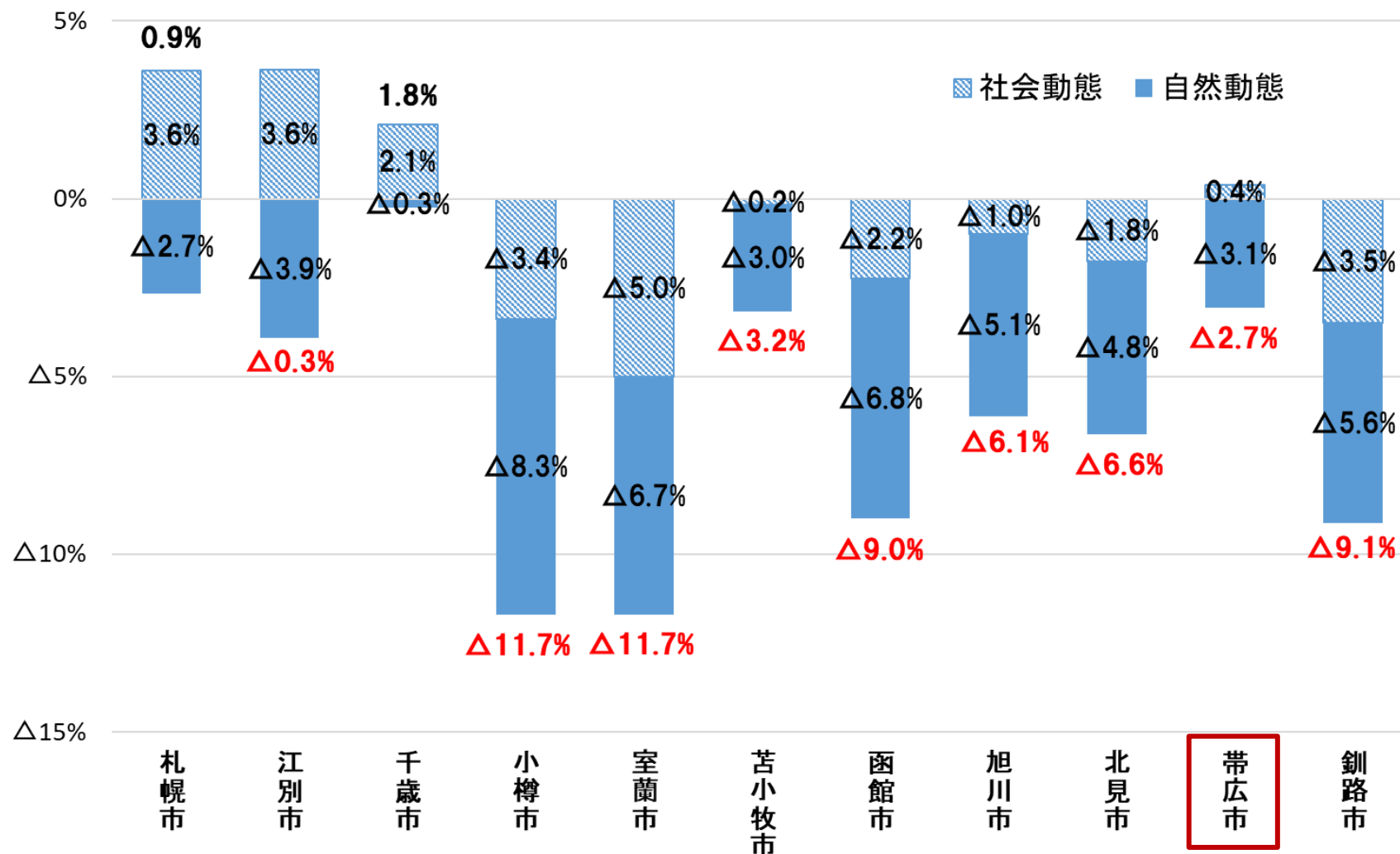


注)各年12月末日現在 出典:住民基本台帳

帯広市の人口

②道内主要都市比較

● 帯広市の増減率は道内4位(2015～2022年)

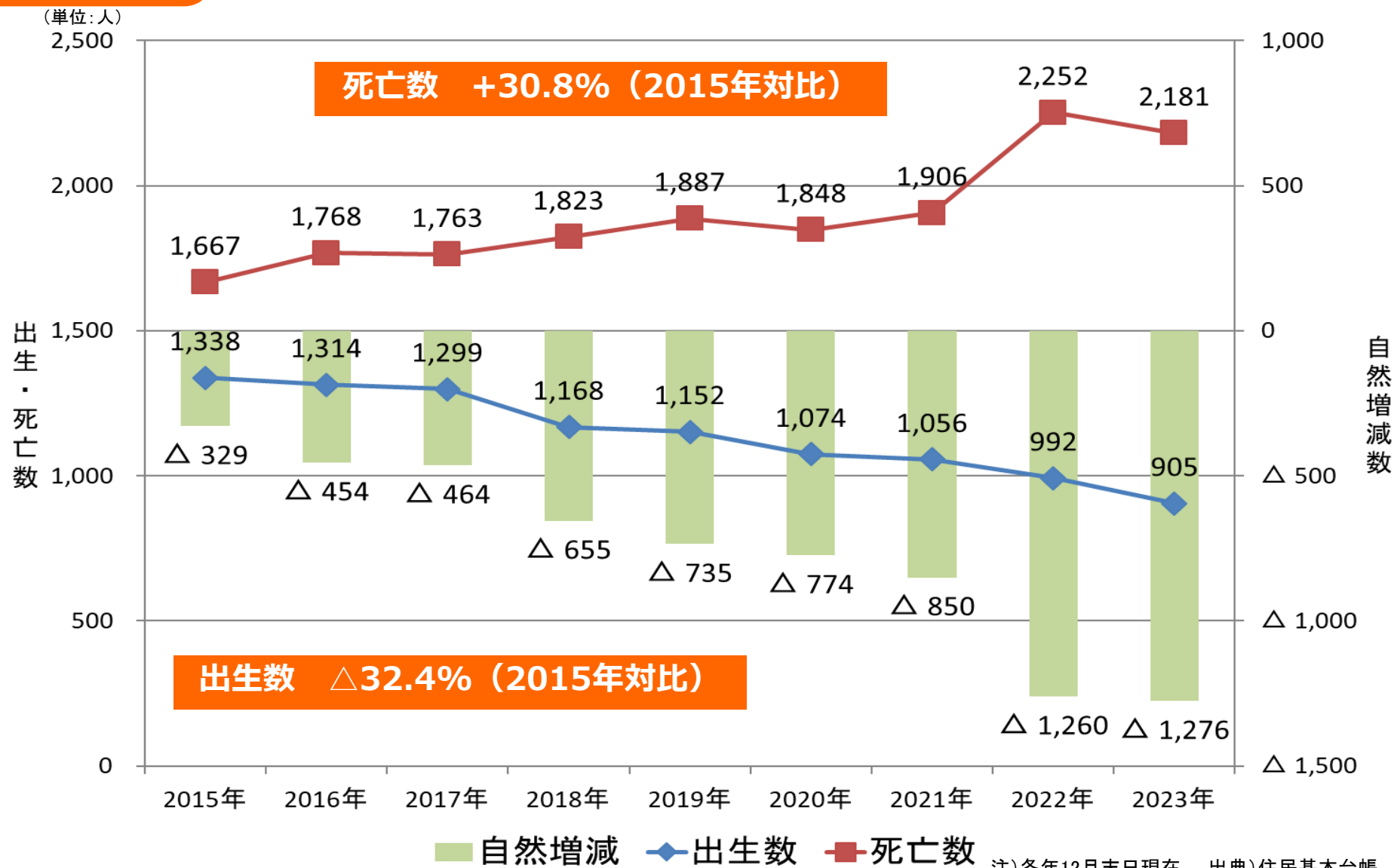


注) 社会動態は転出入差と職権による増減の合計、各年12月末日現在の比較
出典: 振興局市区町村別人口、人口動態及び世帯数(北海道地域振興局)より帯広市作成

帯広市の人口

③自然増減

● 減少数が拡大している

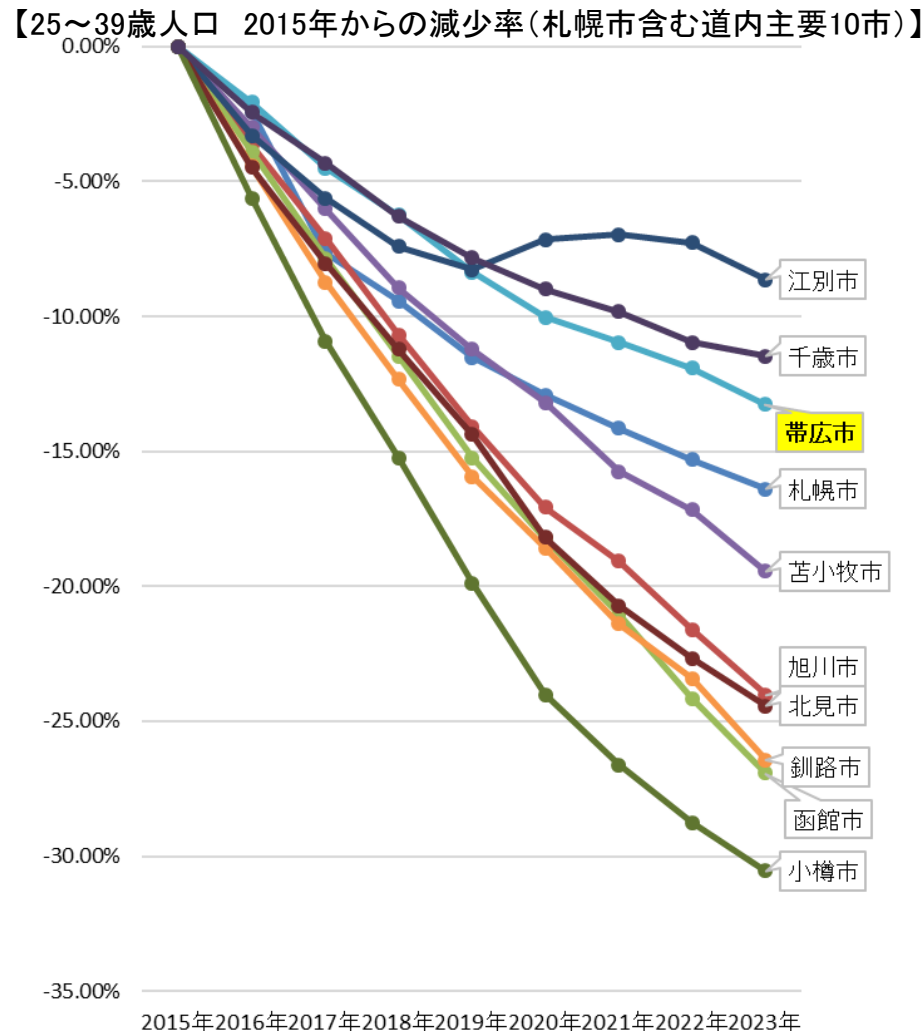
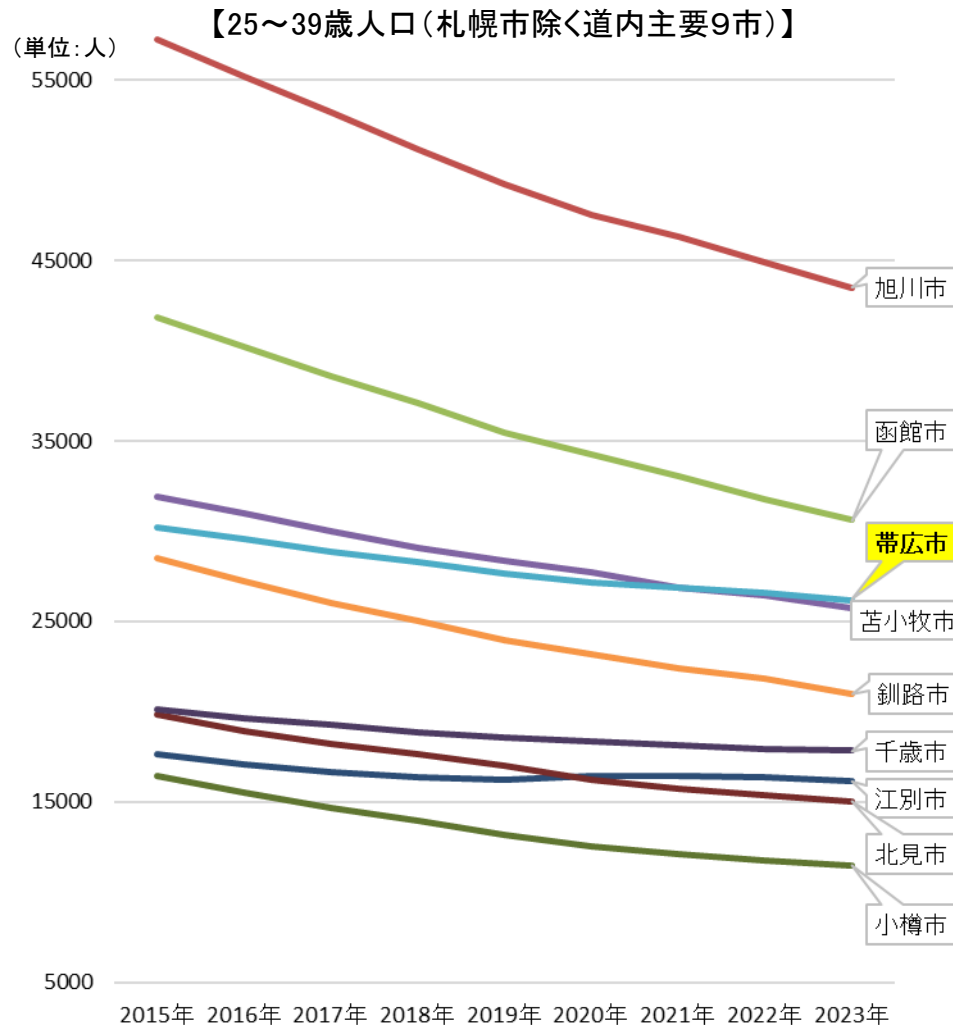


注) 各年12月末日現在 出典) 住民基本台帳

帯広市の人口

④25～39歳の若年人口推移

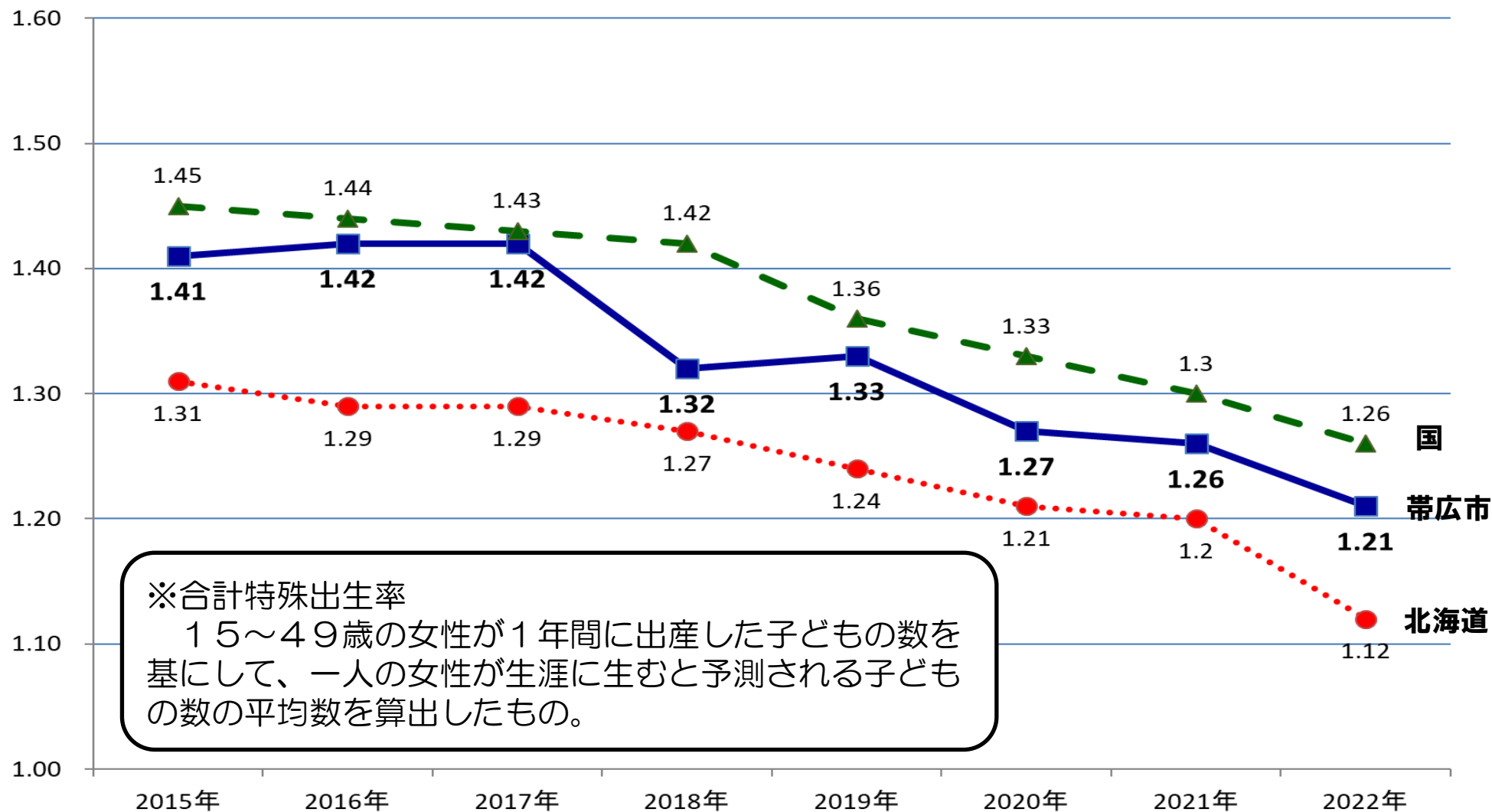
- 結婚・出産や経済活動への影響が大きい25歳から39歳の若年人口を長期的な視点で見ると、いずれの市も減少している。
- 2015(H27)年からの減少率で比較すると、帯広市は江別市・千歳市に次いで緩やかである。



帯広市の人口

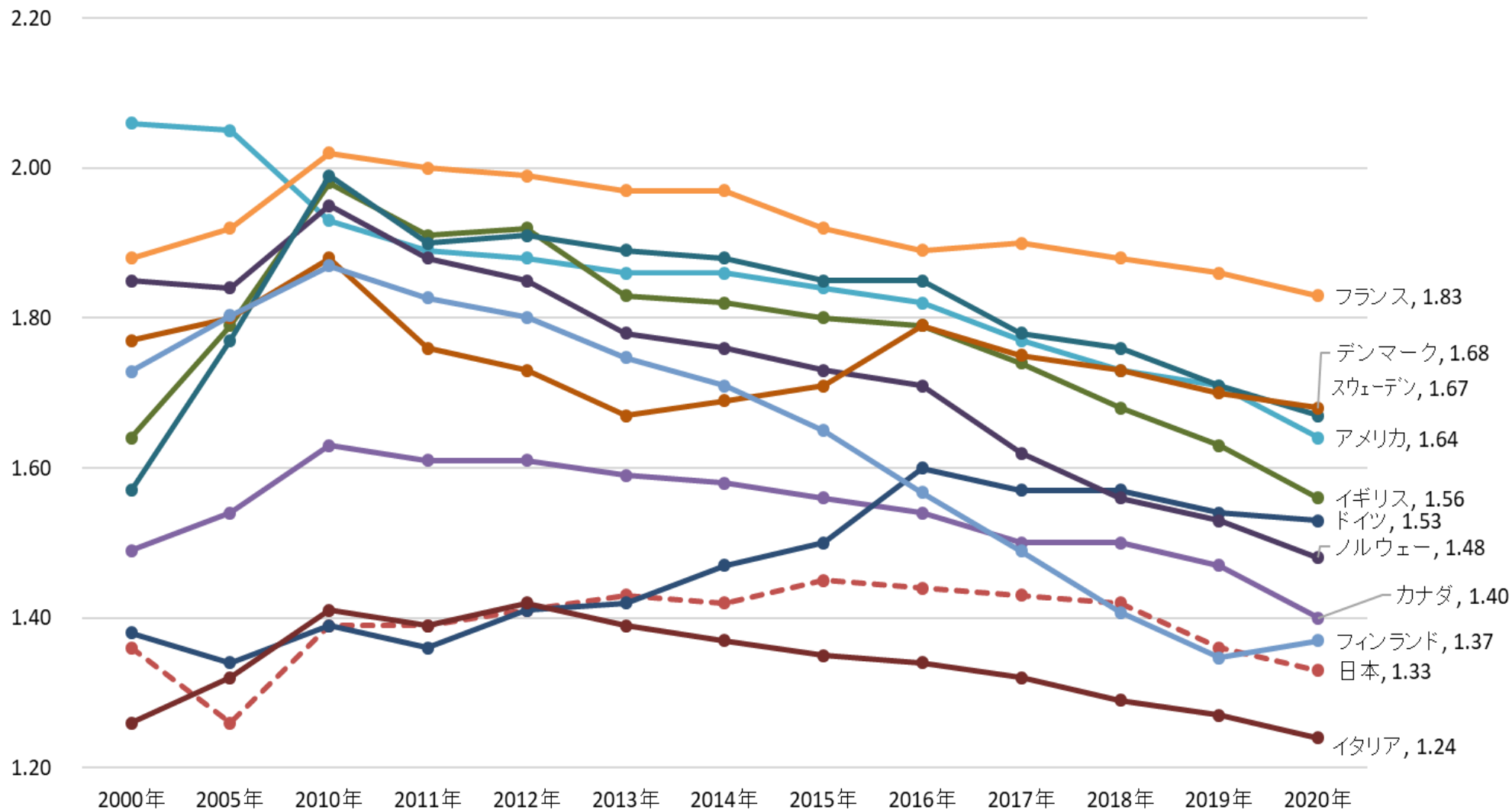
⑤合計特殊出生率

● 全国的な傾向と同様に低下が続いている状況。



(参考) 諸外国における出生率の推移

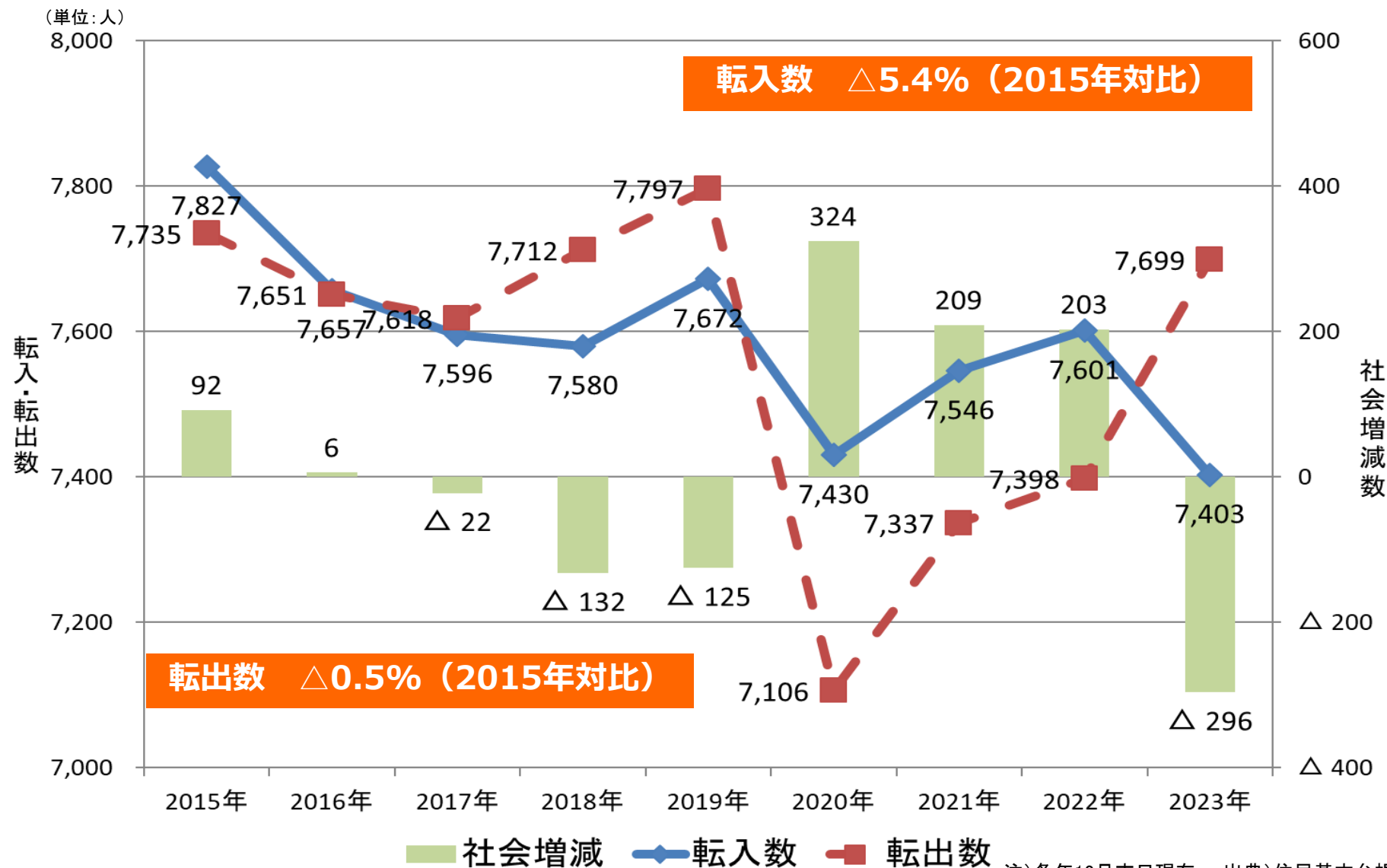
- 合計特殊出生率は、主要先進国においても低下している。
- こうした傾向は高福祉の国とも言われる北欧諸国においても同様である。



帯広市の人口

⑥社会増減

- 転入超過が続いていたが、2023(R5)年は転出超過に転じる。

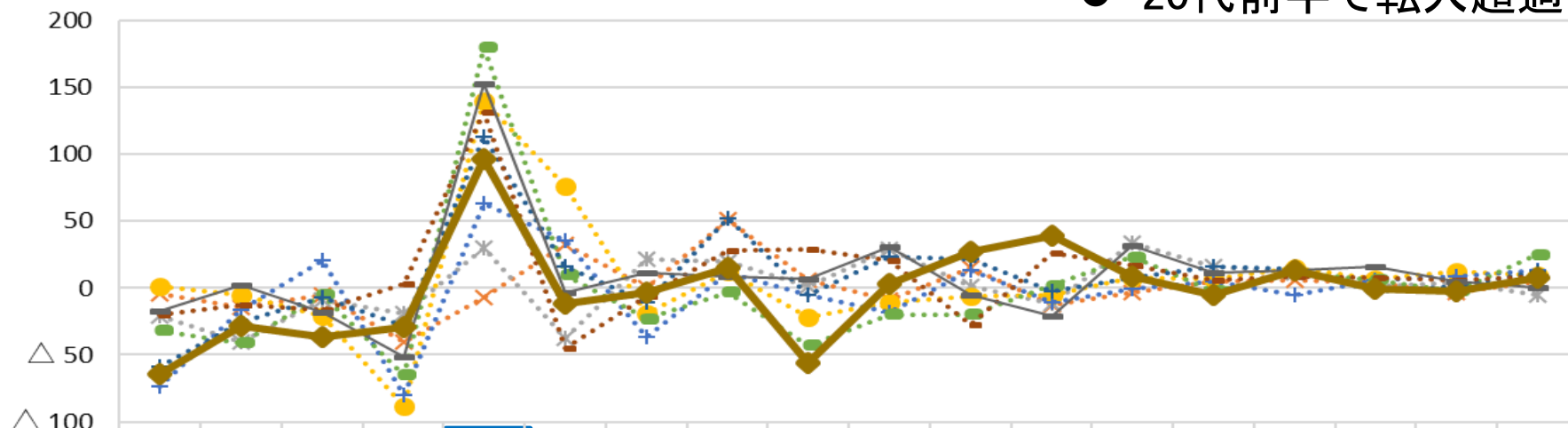


注) 各年12月末日現在 出典) 住民基本台帳

帯広市の人口

⑦（男性）年齢階級別・転出入状況＜経年比較＞

- 10代後半で転出超過傾向
- 20代前半で転入超過傾向



	0～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85以上
2015年	△ 4	△ 14	△ 5	△ 40	△ 7	33	0	51	6	△ 9	15	△ 13	△ 3	5	6	4	△ 3	5
2016年	△ 21	△ 40	△ 9	△ 19	30	△ 38	22	20	1	29	1	△ 12	34	16	11	1	4	△ 5
2017年	1	△ 5	△ 21	△ 88	140	76	△ 19	12	△ 22	△ 11	△ 6	△ 5	8	7	15	7	12	10
2018年	△ 74	△ 16	21	△ 80	63	35	△ 37	11	△ 5	△ 18	13	△ 11	△ 1	5	△ 5	6	9	13
2019年	△ 32	△ 41	△ 5	△ 65	180	10	△ 23	△ 3	△ 43	△ 20	△ 20	2	23	△ 2	11	6	△ 2	25
2020年	△ 59	△ 26	△ 7	△ 28	113	16	△ 11	52	△ 5	23	22	△ 2	8	16	14	△ 2	1	12
2021年	△ 20	△ 13	△ 16	3	132	△ 45	△ 6	28	29	21	△ 27	26	17	6	9	8	6	9
2022年	△ 17	2	△ 18	△ 51	153	△ 3	11	9	7	31	△ 5	△ 21	32	11	13	16	5	0
2023年	△ 64	△ 28	△ 37	△ 29	96	△ 12	△ 3	15	△ 56	3	27	39	9	△ 5	13	△ 1	△ 2	8

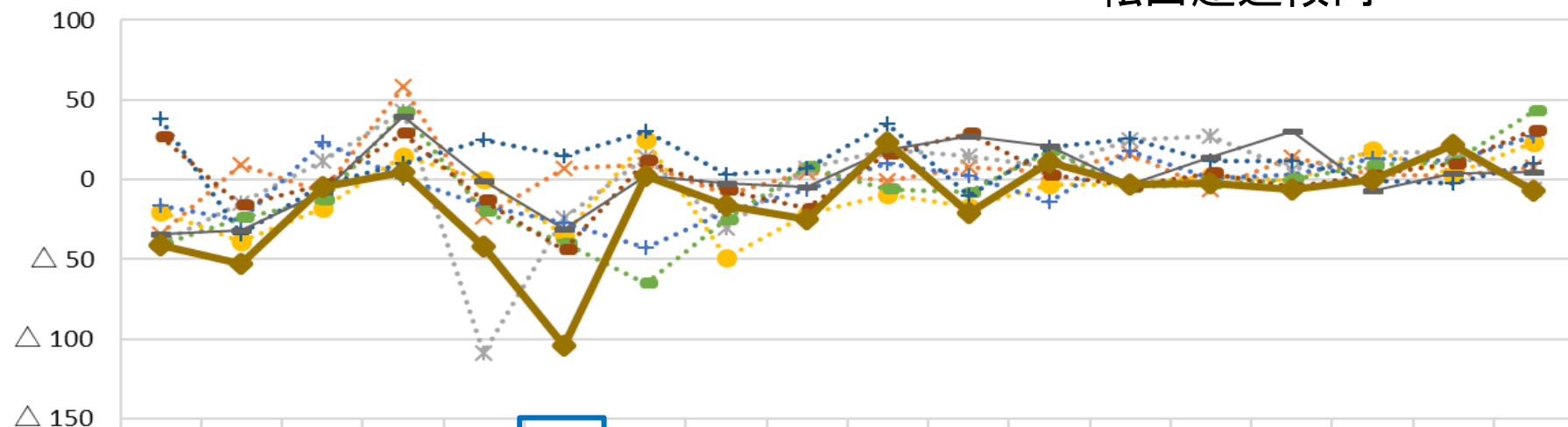
(単位:人)

出典:住民登録データから帯広市集計

帯広市の人口

⑧（女性）年齢階級別・転出入状況＜経年比較＞

- 2023(R5)年は、20代後半で転出超過傾向



	0～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85以上
2015年	△ 34	9	△ 8	58	△ 23	7	9	△ 9	5	△ 1	8	5	16	△ 6	14	3	2	8
2016年	△ 40	△ 15	12	43	△ 109	△ 24	14	△ 30	7	19	15	8	25	27	6	17	17	△ 6
2017年	△ 20	△ 39	△ 18	15	0	△ 35	25	△ 49	△ 22	△ 9	△ 17	△ 3	△ 3	2	△ 1	19	3	23
2018年	△ 16	△ 26	23	1	△ 16	△ 27	△ 43	△ 20	△ 6	10	2	△ 14	18	1	3	13	12	27
2019年	△ 41	△ 24	△ 13	42	△ 20	△ 40	△ 65	△ 25	8	△ 6	△ 8	18	△ 5	△ 3	0	9	11	43
2020年	38	△ 34	△ 3	10	25	15	30	3	7	35	△ 10	20	26	12	12	△ 1	△ 2	10
2021年	27	△ 16	△ 3	29	△ 13	△ 44	12	△ 7	△ 18	16	29	3	△ 4	4	△ 5	3	10	31
2022年	△ 34	△ 32	△ 8	40	△ 1	△ 31	2	△ 2	△ 5	19	27	21	△ 3	14	30	△ 7	4	5
2023年	△ 41	△ 53	△ 5	5	△ 42	△ 104	2	△ 16	△ 25	23	△ 21	11	△ 3	△ 2	△ 6	0	22	△ 7

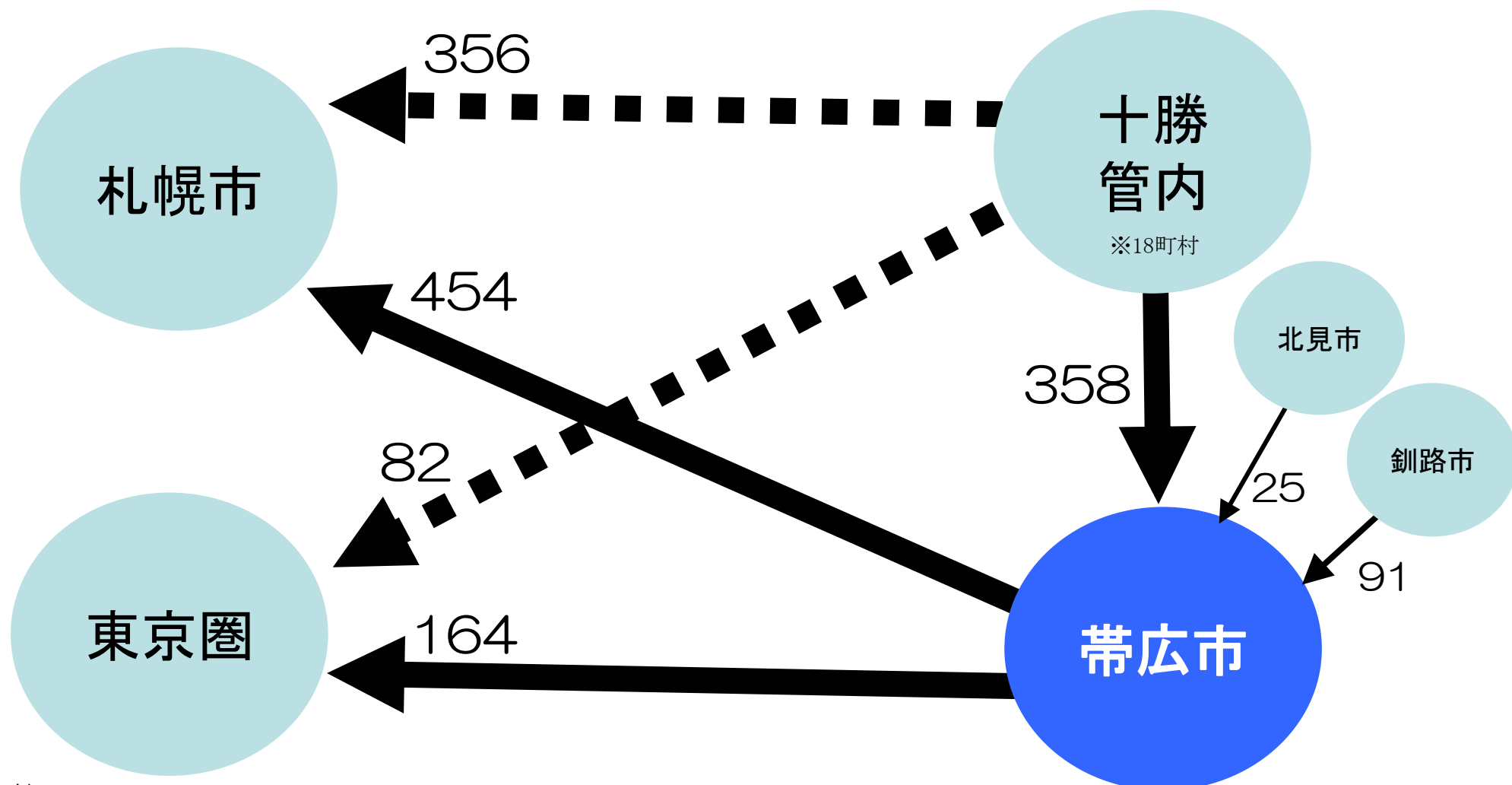
(単位:人)

出典:住民登録データから帯広市集計

帯広市の人口

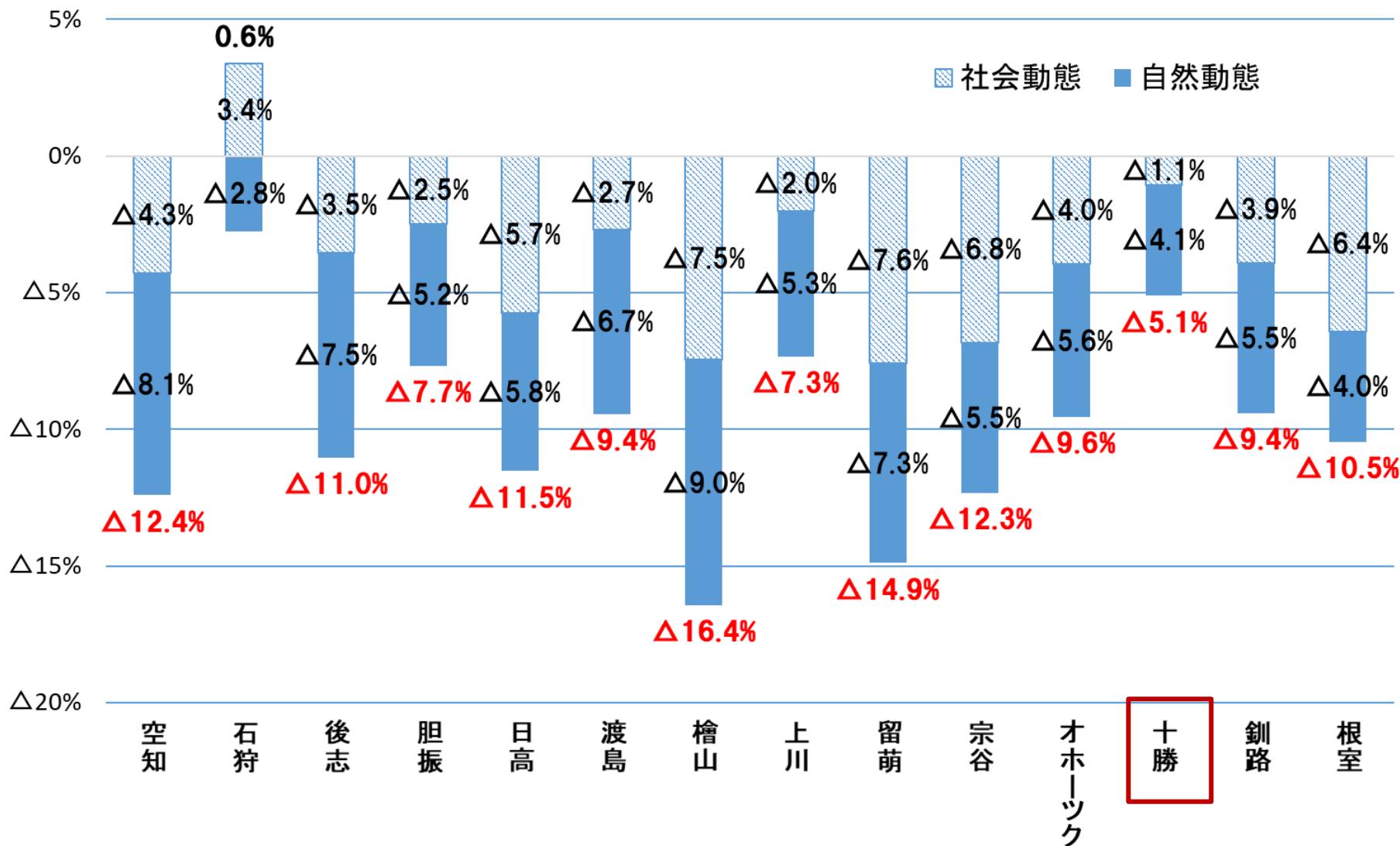
⑨人口移動図

- 十勝管内18町村から札幌市に流出している人口と、同程度の人口が帯広市に流入している。
- 帯広市は、圏域人口のダム機能の役割を担っている。



(参考) 十勝の人口増減率

- 十勝の減少率は増加した石狩を除き道内最小(2015～2022年)



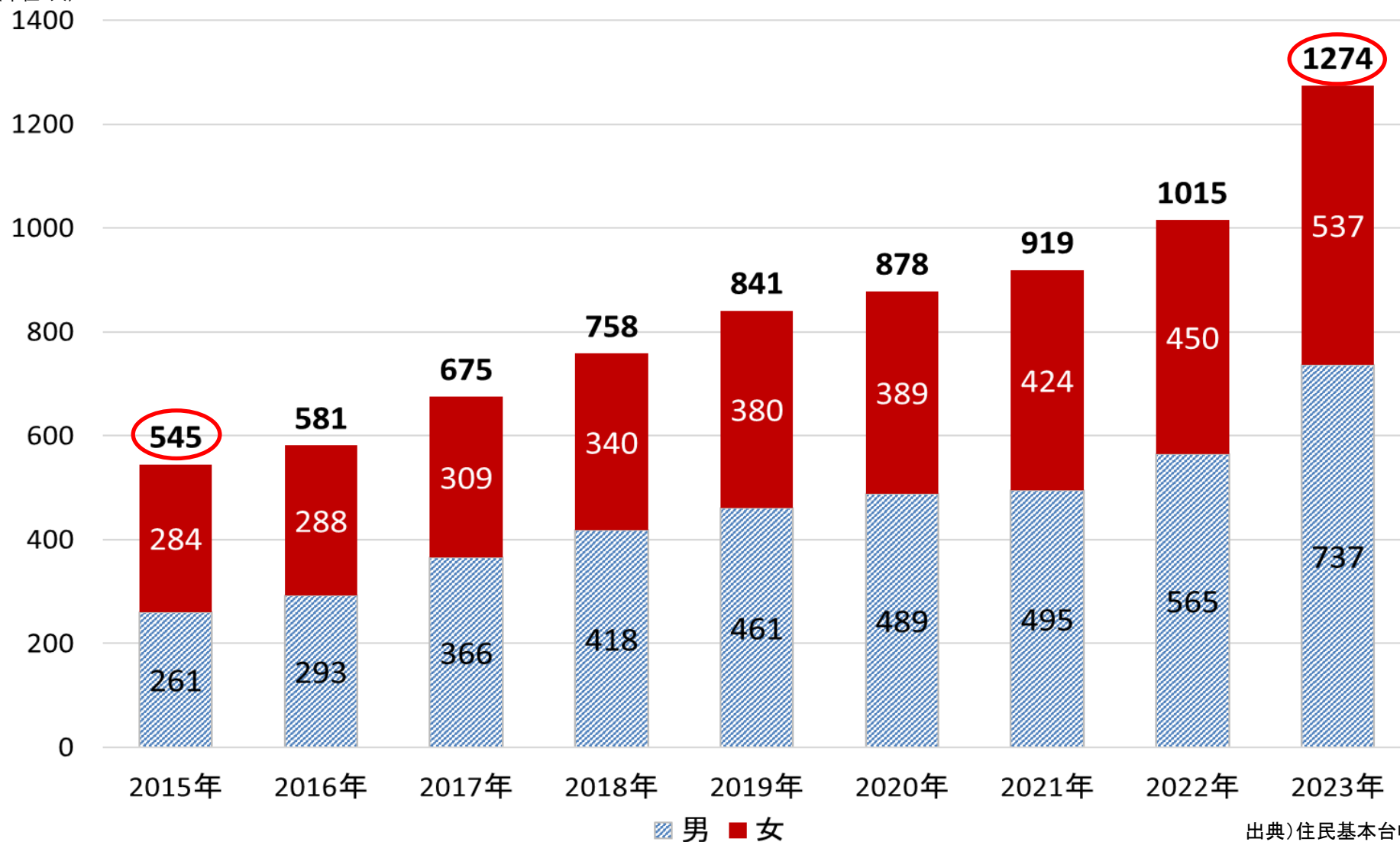
注) 社会動態は転出入差と職権による増減の合計、各年12月末日現在の比較
出典: 振興局市区町村別人口、人口動態及び世帯数(北海道地域振興局)

帯広市の人口

⑩外国人人数

● 2015(H27)年～2023(R5)の間で**729人増加(+133.8%)**

(単位:人)

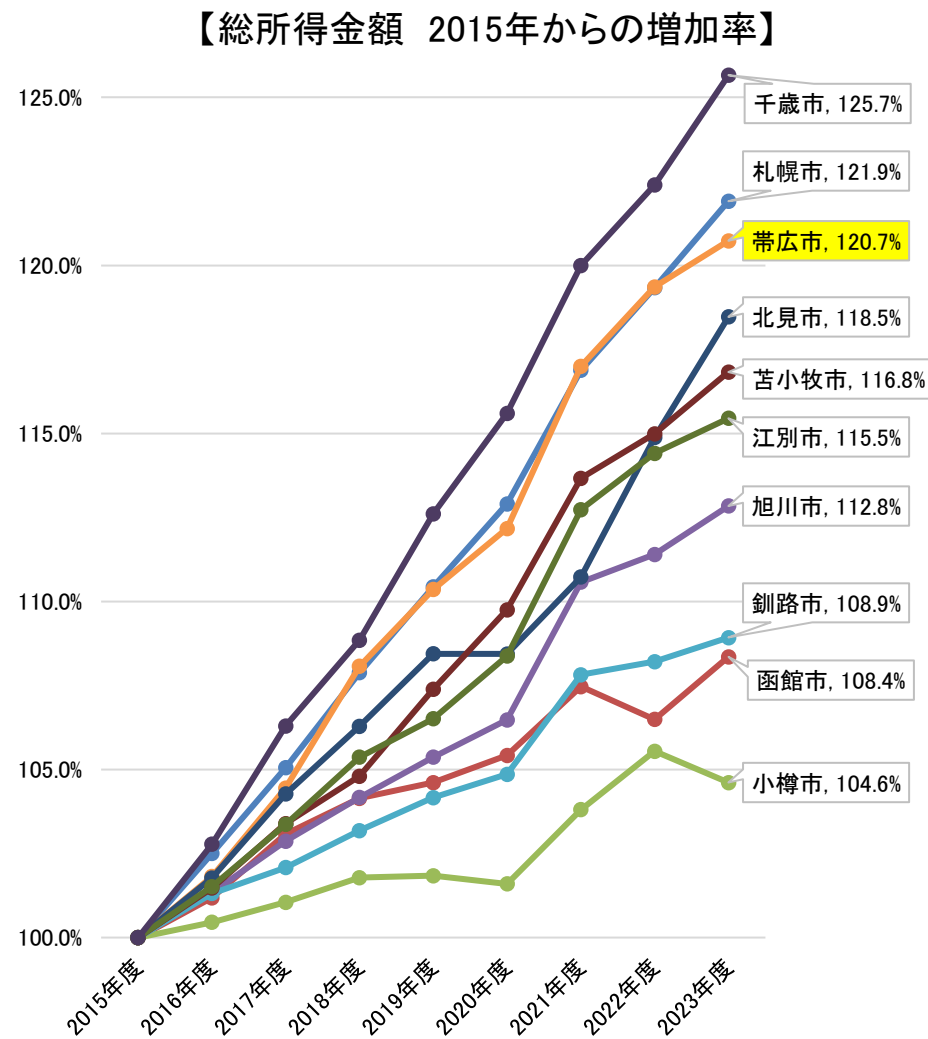
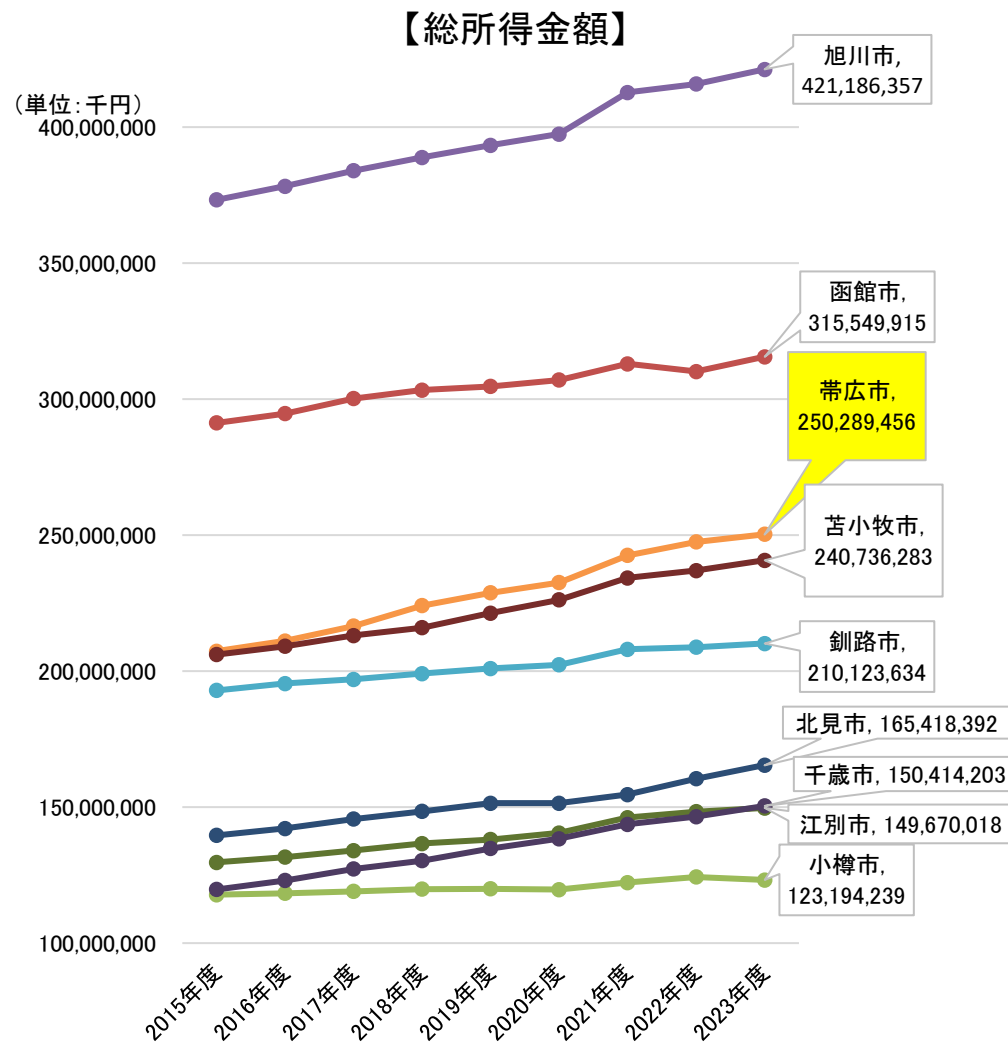


出典)住民基本台帳

帯広市の所得

①総所得金額（個人市民税）

- 個人市民税における総所得金額は、9年間で約20%増加している。
- 総所得金額の増加率は、千歳市・札幌市に次いで3番目に高い。

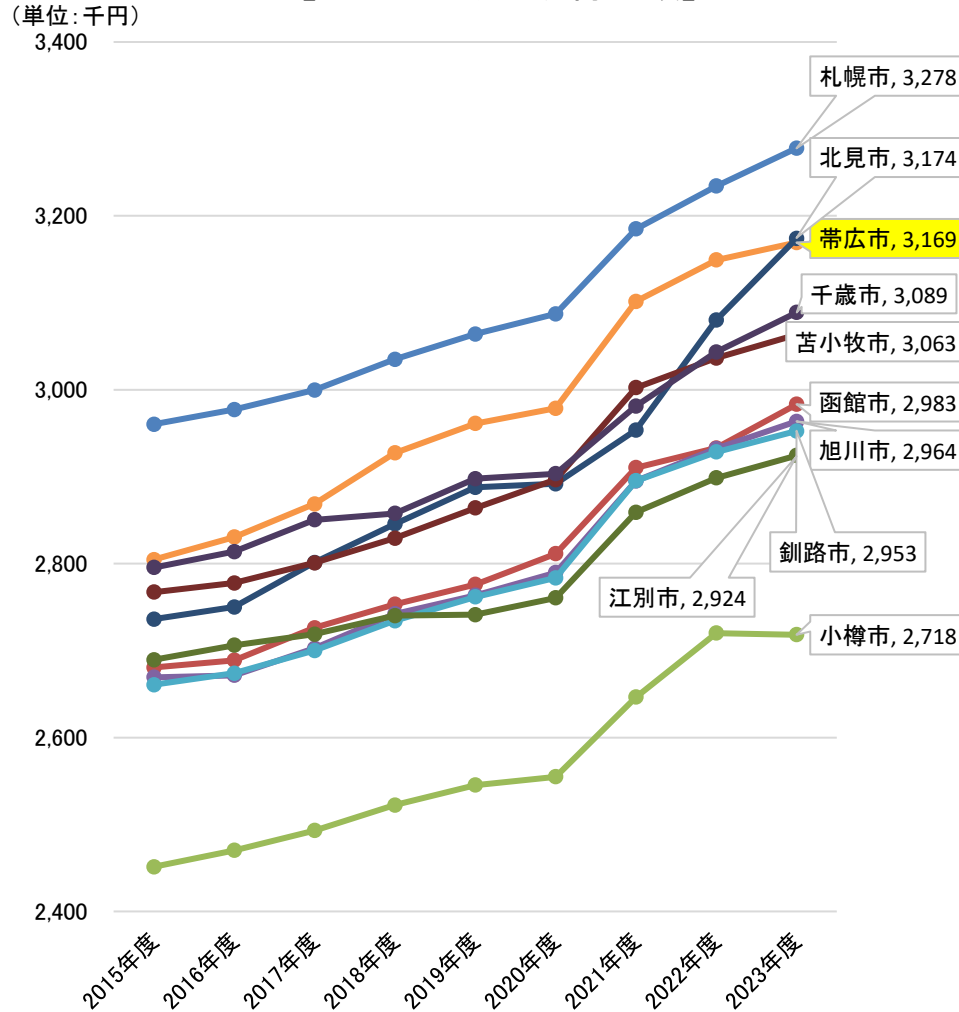


帯広市の所得

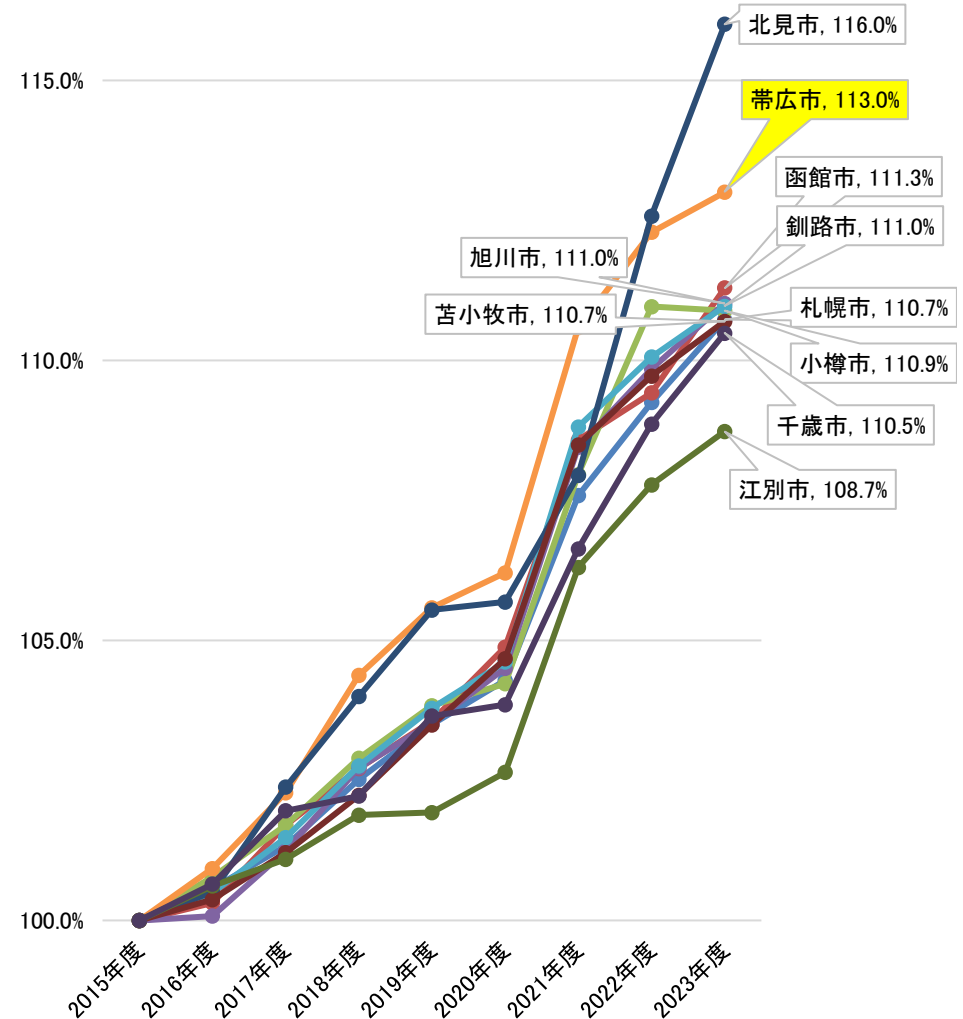
②一人当たりの所得金額 (個人市民税)

- 一人当たりの所得金額は道内主要都市で3番目に位置している。
- 2015年度からの増加率では、北見市に次いで2番目の上昇率である。

【一人当たりの所得金額】



【一人当たりの所得金額 2015年からの増加率】



注) 一人当たりの所得金額は、総所得金額を所得割の納税義務者数で割ったもの

出典: 総務省 市町村税課税状況等の調より、帯広市作成

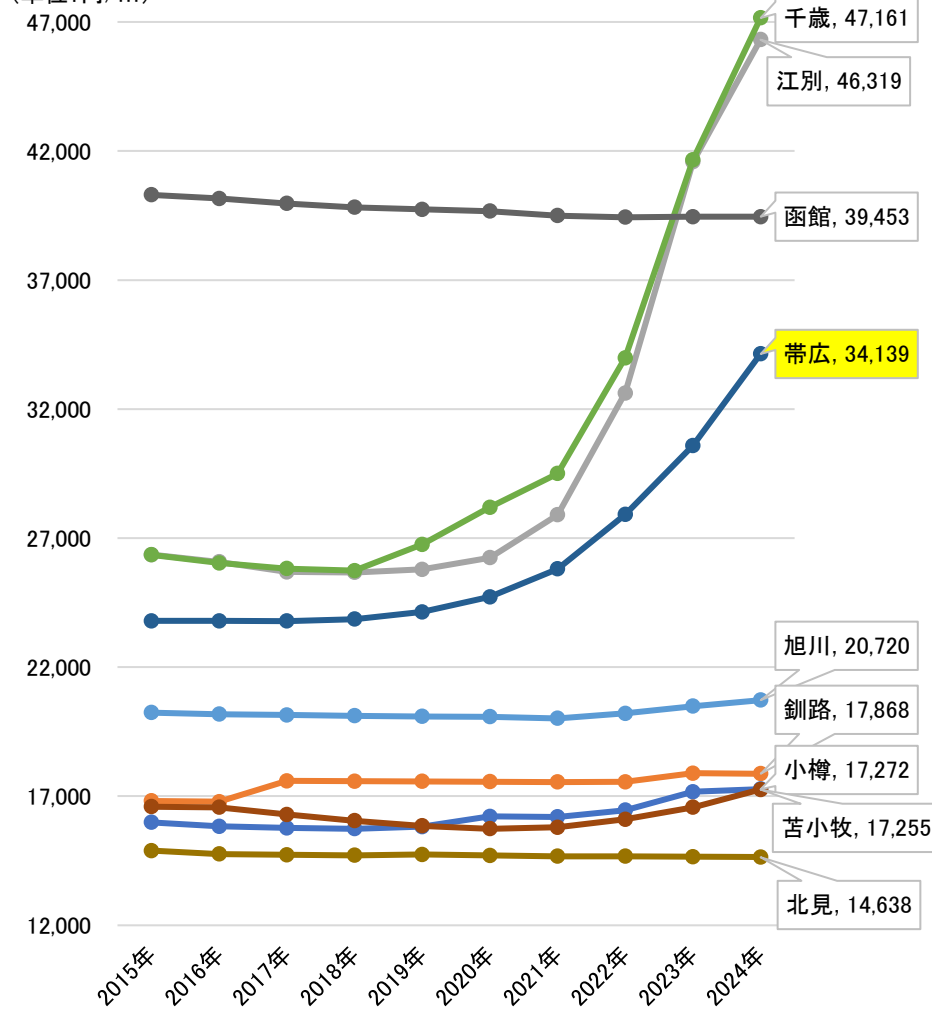
帯広市の地価

①宅地

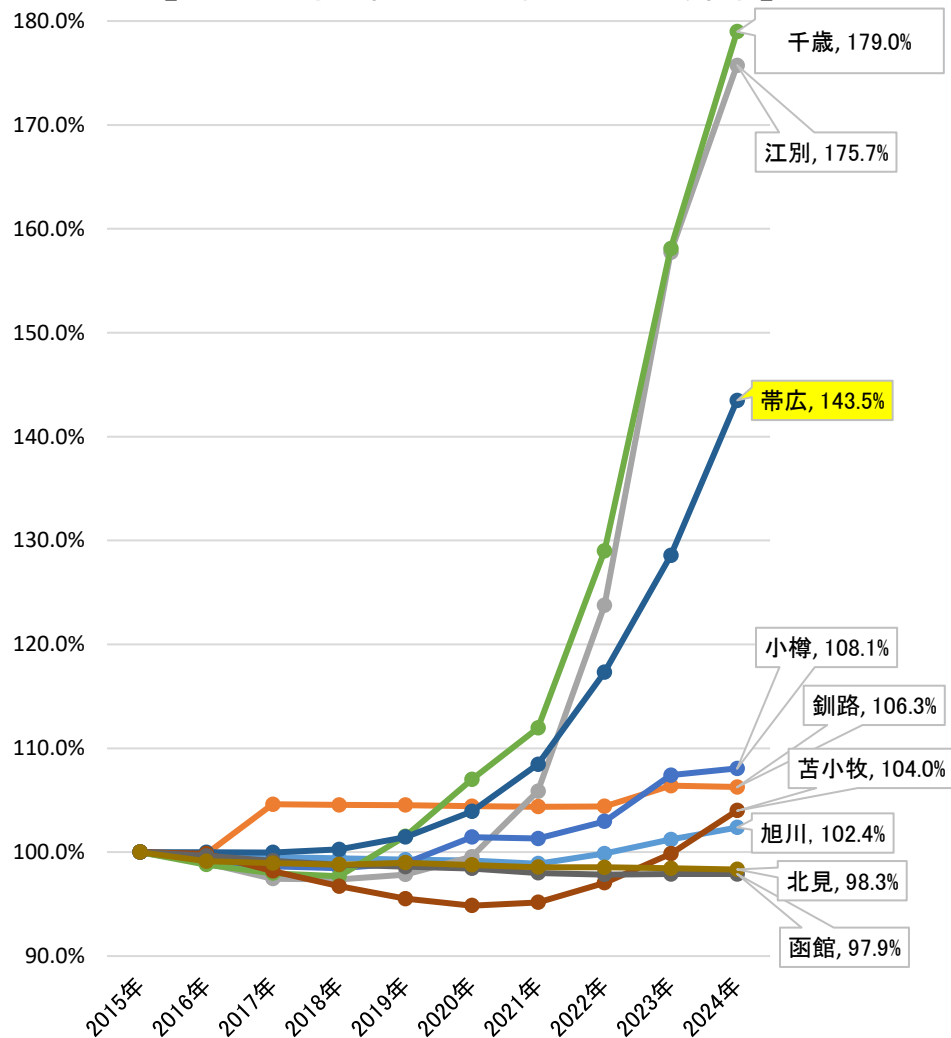
●札幌市以外の主要都市では、千歳市・江別市に次ぐ3番目の上昇率である。

【宅地平均地価】

(単位: 円/㎡)



【宅地平均地価 2015年からの上昇率】

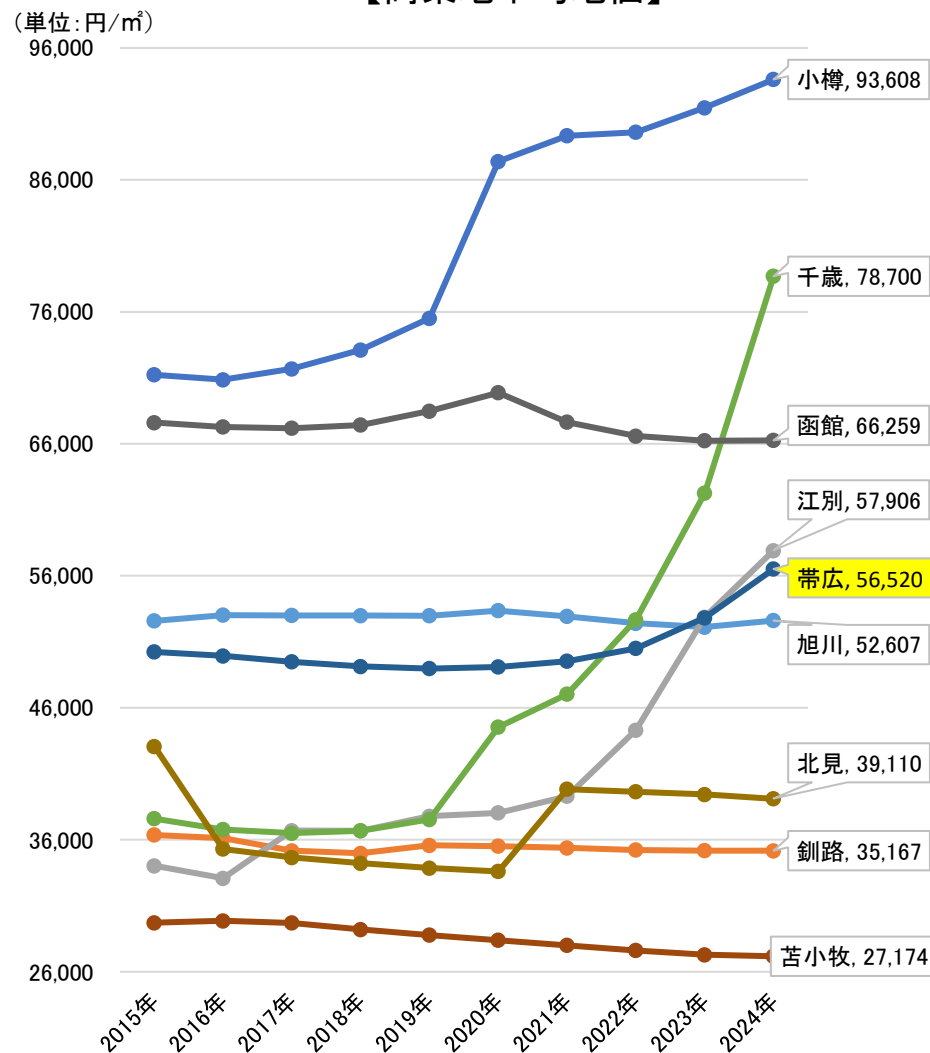


帯広市の地価

②商業地

●千歳、江別、小樽に次いで、帯広は4番目の上昇率である。

【商業地平均地価】



【商業地平均地価 2015年からの上昇率】

